



第十五号  
平成26年6月23日  
発行  
熊本北區高平  
2-20-35  
曹洞宗 浄国寺  
編集者  
中山 義昭

# 浄国寺 施餓鬼法要(檀信徒盆供養)

## 開催案内

### 浄国寺夏季施餓鬼法要

日時 平成二十六年七月三日(木)  
午前十一時より  
浄国寺檀信徒お盆先祖供養

法話 宮崎県 昌竜寺 住職  
霊元 丈法 老師

簡単な弁当を用意しております。出欠及び人数を同封の景書で返信下さい。

今年も右記の要領でお盆の法要として、夏季施餓鬼会の檀信徒総供養を執り行います。ご参詣戴いた方は、ご存じと思いますが、曹洞宗の法要は

多くの僧侶の参加協力を得て務めます(現在手伝つて頂いている僧侶は、熊本市内の曹洞宗寺院の方で、七月一日から十二日までの期間、それぞれの

職してすぐに辞めてしまふ若者が増えていくと聞きます。合う合わないか、適性があるかどうかは、やってみないと分かりません。個人の意志は

お寺を互助しながら行つていきます。これは宗門の儀式が、永平寺をはじめとする雲水(修行僧)がたくさん生活をしていく寺院で執行する形が基本となつていくからです。禅寺では、儀式だけでなく日常生活の中

で修行僧は様々な役割を配役されます(特に調理や台所関係の仕事は典座と呼ばれ大変重要な役割とされています)。役に割り当てられただけなら、その仕事を只管全うする事に努めます。近年、日本では「個性の尊重」という事が少し取り違えられて、この仕事は、自分のやりたかった仕事ではないとか、性質や能力に合わないからと就職してすぐに辞めてしまふ若者が増えていくと聞きます。合う合わないか、適性があるかどうかは、やってみないと分かりません。個人の意志は

大切ですが、何でも思うようになるという勘違いが起きるのが困ったものです。この世の中、生老病死も含めて個人の意志はありません。此の世に生まれようと思つて、生まれ出た人間はいません。親、先祖、様々な縁が重なつて、今の時に、ここに生存しているのです。だからこそ、生きていく事に感謝し、縁を作つてくれたご先祖様に感謝し、一瞬一瞬を精一杯きちんと生きる事を自覚するが大切な事ですし、その自覚こそが故人への何よりもの供養になるのではないのでしょうか？

### 法話の時間

毎年行っている春のお彼岸と夏のお施餓鬼法要の時は、必ず供養の法要

の後、法話の時間を設けてあります。話をされるのは布教師という役割で法話の研鑽を積んだ曹洞宗の僧侶ですが、熊本市内では、布教師経歴を持たない方でも広く法話を



御願ひしています。米アツプル社の創始者だった故ステイブ・ジョブズ氏がサンフランシスコの桑港寺で曹洞宗 鈴木俊隆老師の指導の下、坐禅をしていた事、彼の発想の中に禅の影響が大きかった事は氏の自伝にあきらかにされています。その影響もあるのか、当山の木曜坐禅会にも「一度坐禅がしてみたい」と参加される方が増えていきます。それだけでなく、「仏教の話を知りたいので、定例の集いありませんか？」という質問も増えてきました。キリスト教の教会では、日曜学校としてミ

サと聖書の話が行われる習慣があります。私は高校生の頃から、仏教は亡くなった方の供養だけを行うものではなく、生きている人に生き方を説くものだと言いつつ生きてきました。生活習慣の違いから、欧米のキリスト教の日曜学校のように定着させる事は難しいので(本当は、それが理想ですが)、せめて坐禅会の中だけでと考へ、木曜坐禅会では、坐禅終了後三十分程度 仏教の話をしていきます。そう言う意味でも、今回を務めていただく宮崎県の霊元丈法老師は、大本山総持寺の布教部長も歴任され、一般の方を対象に分かりやすく説かれた「和尚さん教えて」という本をはじめ、多数の著書も書かれ、布教経験が豊富な方です。短い時間ではありますが、きつと心に何かお土産を持つて帰る事ができると思えます。私も話が聞けるのを楽しみにしています。都合のつく方は、お話しだけでも是非お運び下さい。

しかし、今の日本の状況は、何か間違った方向に舵を切られているような気がしてなりません。グローバル

### 今度こそ晋山式を挙行します

しんざんしき

リゼーションの名の下の経済成長至上主義、貧富の較差拡大、生活基盤の脆弱化、人が仏様にすがりたいと考へるのも当然かも知れませんが、仏教に耳を傾けてくれる方が増えるのは嬉しい事です。そう言う社会情勢の流れは問題だと思えます。

昨年、一連の施餓鬼の法要から七月のお盆を終えて、疲れが出たのか、うっかり階段から転落し腰椎骨折で二ヶ月強の入院となり、実行予定の晋山式(住職就任式)が一年延びる事になりました。その後、四月竣工の認可外保育所の開園に追われ、晋山式の準備も叶いませんでした。保育園も、ようやく稼働をし始め、晋山式の準備に入ったのが四月末、現在、近隣の方丈様方に助けられながら、準備を進めております。本宗の僧侶にとっては最大の行持です。しっかりと修行して、檀家の方には「自分の寺の住職は、この人で問題なし！」



### 納骨堂について



と言っていただけのような晋山式を行いたいと思つています。どうか宜敷御願い申し上げます。

二年前の五月に納骨堂を改装して納骨壇を七十基あまり増設しました。今の建物を作った時の納骨壇と同じ形で一基(一家)に付き六霊程度納める事ができるものです。現在も五十基ほどは余裕があります。



近頃、納骨堂の加入契約を結ぶ事を永代供養という表現をする事があるようです。契約形態自体は期限なしの占有契約ですので永代と言えない事もないのですが、供養は子孫の務めです。あたかも納骨堂に加入したら、後は全部任せで、家族や親族は何もしなくて良いと誤解される事もあります。納骨堂の管理維持は、お寺の務めですが、供養しなくて良いという訳ではありません。その誤解がないよう

うにお伝え致します。子どもや子孫がいないので不安だという方や、誰の世話にもなりたくないと言われる方の為には、別途、一霊毎の納骨契約になる形式の永代供養納骨壇も設置しています。詳細は、どちらもお住職までお尋ね下さい。



### 初盆のお知らせ

昨年の施餓鬼の案内寺報にも書きましたが、浄国寺ではお盆に檀家の方々の家を回る事は十五年前から行つていません(私の健康上及び幼稚園の仕事の関係の理由)。申し訳ありません。

ただし、初盆のお宅だけは回ります。近年、檀家として登録される方も増え、初盆も ある程度の数になります。特に初盆の場合は、親戚が集まる都合で、八月盆に来て欲しいという要望も有り、八月の三日間で回るのも、順路を考へるのが大変な状況です。現在順路の日

### 娑婆は娑婆

現政権になり、憲法改正論議が盛んだ。出家者は政治に関わってはならないのは、お釈迦様からの鉄則の筈だ。しかし、九条問題だけでなく憲法の性格や理想像まで改変されるとなるとこの国に住む人間としては、看過できない。義務を果たさない人間は権利を主張できないのは常識的に当然だが、同じ理屈で義務を果たせない人間は、人権という権利の主張もできないとなると話は変わってくる。更に議会制民主主義の根幹が揺らぎ対外的経済力が国力とみなされその目的の為に三権分立さえ崩れかねない状態が見える。そうなれば権力保持者の恣意専断による統治の始まりだ。

### 定例木曜坐禅会

毎週木曜日 午後八時より

当山本堂にて

一炷(約四十分)坐禅をして、坐禅に関する著述の解説(約二十分) 会費・会則一切なし、初めてのの方は連絡下さい。